

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	法学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学位授与方針を策定し、学内外に周知する。	→「学位授与方針の策定と周知方法の検討」	C	C	A	A	A
2. 学位授与基準および修得すべき学習成果を明確化して、学生に周知する。	→「学位授与基準および修得すべき学習成果の明確化および周知方法の検討」	C	C	A	A	A
3. 学生間・教員学生間での双方向的授業の機会を増やすため、少人数教育科目を増やす。	→「少人数教育科目の数、シラバスの詳細化、履修登録率・単位取得率」	B	B	A	A	A
4. 学生の進路や学修の希望に応じて専門教育課程を再編成する。	→「新設科目の数、シラバスの詳細化、履修登録率・単位取得率」	B	B	A	A	A
5. 教育課程の実効性・適切性を定期的に検証する。	→「教育課程について学生の満足度調査の実施、カリキュラム検討委員会の開催」	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度に法学部として学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を策定し、法学部履修心得、法学部ホームページ、および大学教務部ホームページに明示している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 反響は特になく効果も明確でないが、対外的には入試広報などを通じて法学部についての認知を確認すべき。対内的にはこれまで暗黙裡に合意していた内容を明確化することになった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 定期的に検討し、必要に応じて見直す。	☆
		その他	
			☆
目標2	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度に学部としてディプロマ・ポリシー策定と同時に、カリキュラム・ポリシーも策定し、法学部履修心得、法学部ホームページ、および大学教務部ホームページに明示した。合わせてカリキュラム・マップも策定した。カリキュラム・マップについては2012年度より法学部ホームページおよび法学部履修心得に明示した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学生がどの程度注目しているかは不明のため要調査。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学生にとってこれらの明確化が有益であったか否かを確認する作業が必要であろう。	☆
		その他	
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度スタートの新カリキュラムにおいて、少人数での双方向式授業となる演習科目の種類を増やした。1回生に開講される、スタートアップ演習、基本演習に加え、新カリキュラム対象の2012年度入学生の学年進行に連れて、コース導入演習、法政教養演習、法政文化教養演習I II、模擬裁判演習、各コースにおける実践演習を順次開講した。またすべての演習科目について各回の授業内容を明記したシラバスを用意している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度の演習科目は2015名が履修し、うち1910名が単位を取得している(単位取得率は94.8%)。1年生対象(必修)のスタートアップ演習における単位取得率は2012年度が95.5%、13年度が98.7%、基本演習は12年度が98.4%、13年度が94.7%であった。履修登録率は2013年度スタートアップ演習において実質100%である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度授業調査にこれらの演習科目を含め、学生の満足度や改善点などを確認する。	☆
		その他	
			☆

目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか コース制導入に伴いコース導入演習を新設したほか、刑法発展演習、憲法発展演習、司法特修実践演習A、法政教養演習、民事訴訟法発展演習、民法発展演習、模擬裁判演習などの演習科目を新設した。講義科目としてはジェンダーと法A、同B、法曹入門、労働法概論などを新設した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 上記新設科目の履修者数は2232名、うち単位取得者は1958名(単位取得率は87.7%)である。コース制については、各コースの選択率にばらつきがある。またコースと学生の進路との関係についてはまだよくわかっていない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学生の満足度、コースと進路の関係について確認すべきと思われる。</p> <p>その他</p>	☆
目標5	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2011年度に策定したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、カリキュラム・マップについては、FD活動検討委員会において定期的に検証する制度を構築し、運用している(2012年度、2013年度、2014年度いずれも5月に開催した同委員会において、検証を行った。)</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 新カリキュラムがまだ4年間を経っていないので、情報を収集、整理している段階である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 新カリキュラムは策定後5年の時点で再点検する予定であるが、その検証データを得るために、2012年度入学生が新カリキュラムの下での4年間を終える時点で満足のいく学習効果が得られたかを調査する予定である。</p> <p>その他</p>	☆
備考			☆